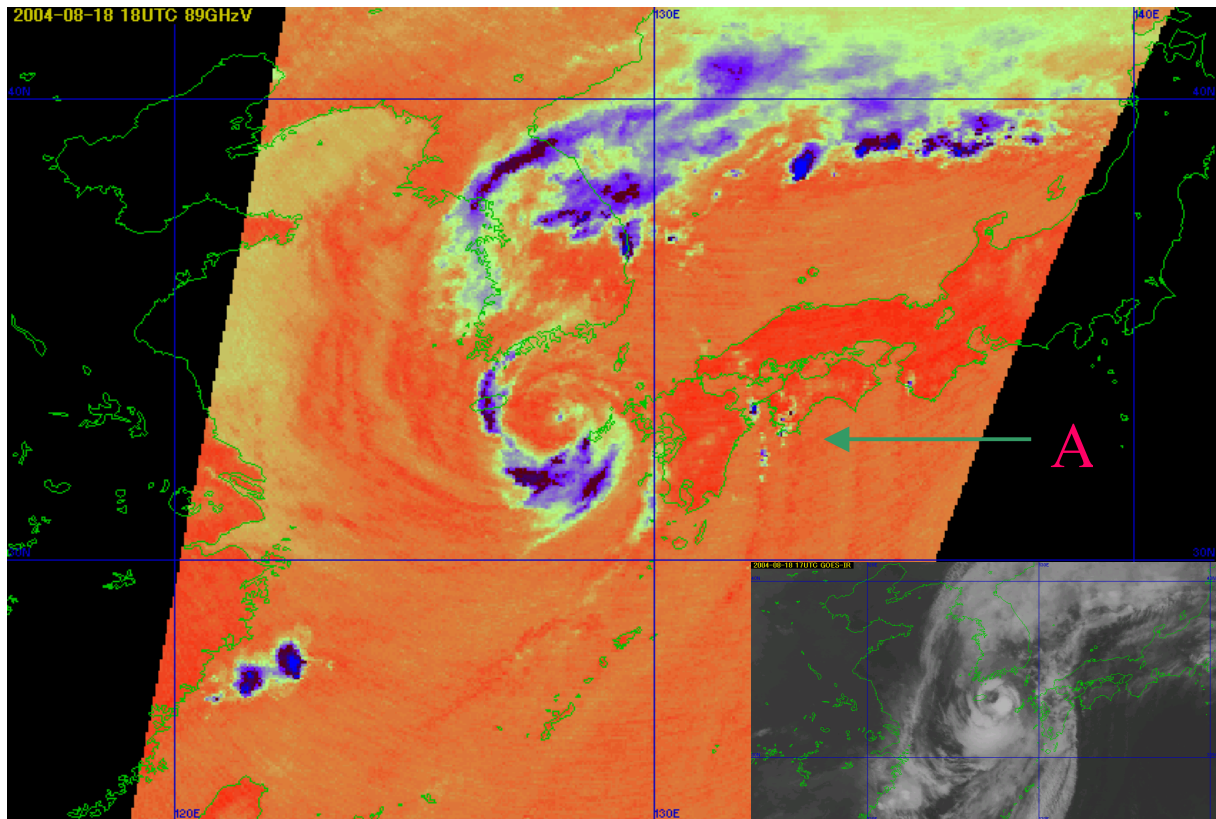


今月の気象衛星画像 (2004年8月)



2004年8月19日午前1時の89.0GHz垂直偏波画像(JAXA提供)

右下：2004年8月19日午前2時の赤外画像

マイクロ波で見た発達した対流雲列

8月16日フィリピンの東海上で発生した台風第15号は、沖縄の南から対馬海峡を通り20日午前早朝に津軽半島に上陸した後、夕方には釧路沖へ進んで温帯低気圧となった。西日本への直撃はなかったが、台風に伴う強い暖湿流と高気圧の縁辺流により、愛媛県および高知県では1時間に50ミリを越える激しい雨が降った。愛媛県で4人、香川県で5人の死者がでたほか高知県では土佐町の小学校が孤立するなど甚大な災害が発生した。

写真は Aqua 衛星*の AMSR-E センサーによるマイクロ波衛星画像である(参考のため撮像時刻に近い GOES-9 の赤外画像を付した)。四国地方を指向する発達した対流雲列が見られる(図中 A 付近の紫・青部分が発達した対流雲列)。赤外画像では上層雲と対流雲列の識別が困難であるが、マイクロ波画像では容易である。発達した対流雲列の監視は防災上重要であり、今後マイクロ波画像は有効な監視手段になると考えられている。マイクロ波画像の利用は試験段階であり、特性など現在調査中である。

(気象衛星センター)

*Aqua 衛星；2002年5月4日に打ち上げられた NASA の地球観測衛星。アメリカ・日本・ブラジルの国際協力プロジェクトに基づいて共同開発され、AMSR-E, MODIS, AMSU, HSB, AIRS など多種類のセンサーを搭載する。極軌道衛星で日本付近を1日2回01時30分、13時30分頃通過する。